

令和8年3月11日

目黒区教育委員会教育長 宛て

目黒区立向原小学校  
校長 畔柳 信之

令和7年度 目黒区立向原小学校 学校評価報告書

1 学校評価委員会の実施内容

- (1) 第1回実施日時 令和7年6月21日(土) 午前11時0分～午前11時45分
  - ・学校公開の参観
  - ・学校経営方針、学校行事等の説明
  - ・学校評議委員からの意見
- (2) 第2回実施日時 令和7年9月20日(土) 午前10時0分～午前11時0分
  - ・道徳授業地区公開講座の参観
  - ・前期の教育活動の説明、児童の状況の説明
  - ・学校評議委員からの意見
- (3) 第3回実施日時 令和8年2月12日(木) 午後5時0分～午後6時0分
  - ・学校公開の報告
  - ・後期の教育活動の説明、児童の状況の説明
  - ・学校評議委員からの意見

2 参加者

校長(畔柳 信之) 副校長(靱井 和之)  
学校評議員(西崎 高史、星 ゆき、藤田 千代子、中尾 香、前川 育子)

3 評価の結果等

※四者…児童・生徒、保護者、地域の方、教職員のこと。

評価項目	◎(成果)、●(課題)、 ◎(成果と課題の両者を含む)	次年度の教育活動の改善点	学校評価委員会での意見 (学校運営協議会での意見)
<b>I 学校全体について</b> ・学校の雰囲気、学習環境、教職員の態度などについて、家庭・地域との連携、地域人材の活用などについて	◎四者評価における、学校の雰囲気についての肯定的な回答は、保護者93.2%、下学年82.7%、上学年89.9%と概ね高めを維持している。教職員の対応では、肯定的な回答が保護者93.2%、下学年91.3%、地域100%と高い。日頃の教員の丁寧な対応が、保護者や地域に伝わっている。	・ 上学年児童に対する児童理解を深め、教員と児童の関係づくりを進める。専科教員やスクールカウンセラーなど、担任以外からも関わりを深め、対応をしている。	・ 上学年児童の否定的な回答に注目すべきである。学年・学級による偏りがあれば、担任に対しての不満かもしれない。小さな範囲で具体的に気付くことがないか原因を探ることが必要である。一つの出来事だけがきっかけで答えている可能性もある。

	<p>●四者評価における教職員の対応について、上学年の肯定的な回答が、16.7ポイント下がって75.7%だった。教員との関係に難しさを感じている児童が増えた。</p>		
<p><b>II 教育目標について</b> ・教育目標、時程、教育内容全体について</p>	<p>◎四者評価における保護者の肯定的な回答が教育目標について1.4ポイント増の82.9%、教育活動全体について6ポイント増の88%であり、教育方針等が理解されてきている。</p> <p>●教育活動全体について上学年が、5.4ポイント減で75.7%である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ソーシャルスキル等の課題が見られるため、引き続き「かかわりを大切にする子」を重点として進める。</li> <li>・ 学校の教育活動について、子どもたちの意見を取り入れる工夫を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 携帯電話での文字の関わりが増え、あいさつが不審者扱いされる時代である。集団生活での人との関わりが大事である。地域の関わりも必要である。子どもに接する時間の長い教職員の関わりはとても重要であるので、目標を継続してほしい。</li> </ul>
<p><b>III 心の教育について</b> ・ 道徳科の授業の充実や児童・生徒の道徳的実践力の向上に向けた取組について</p>	<p>◎四者評価における保護者83.8%、下学年の肯定的な評価が93.3%で、前年度より約2ポイント増、上学年は4.3ポイント減ではあるが92.6%である。道徳の授業や学級指導が、子どもたちに日常の様子につながっていると考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 上学年は、複雑な心情を抱える時期であり、きめ細かな指導を継続していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 命に関わることは、掘り下げて細かく分析し、対応してほしい。いじめをいじめと思っていない子どもいるだろう。具体的に子どもたちの声を聞いて見る必要がある。</li> </ul>
<p><b>IV 学習指導等について</b> ・ 学力の定着・向上に向けた授業の改善・充実、習熟度別指導、〇〇タイム、主体的に学習に取り組む態度等の取組</p>	<p>◎四者評価における学習指導について、肯定的な回答は、保護者80.3%、下学年88.5%、上学年92.6%と、昨年度とほぼ変</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 引き続き、研究開発校として校内研究の充実や日々の授業づくりの工夫等を重ねていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 下学年で1割が否定的な回答であることが心配である。支援する人材がつくなどの手だてを充実してほしい。</li> </ul>

<p>について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職場体験等体験活動、自然宿泊体験教室、キャリア教育等の充実について</li> </ul>	<p>わらない。学習状況調査では、6学年の1教科以外は全国平均を上回っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・四者評価における情報端末の活用について、保護者の肯定的な回答が12ポイント増で87.2%であった。学校公開・家庭学習等での活用が伝わっている。</li> <li>●チャレンジタイムの自己選択学習や〇〇教育についての研究を深める必要がある。</li> </ul>		
<p><b>V 体育・健康教育について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体力向上、健康の促進に向けた取組について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●四者評価における保護者の肯定的な回答が3.2ポイント減の67.5%で区平均より21ポイント低い、教職員は9.4ポイント減の85%で区平均より11.2ポイント低い。学校改築に伴う運動機会の減少が原因と考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・区健康トレーナーやアスリート派遣事業の積極的な活用により、専門的な指導を充実させるとともに、体育の授業の工夫を継続する。</li> <li>・体力テストの結果を体育の指導に生かし、課題のある項目を伸ばす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物理的な制約がある中で、教育指導面は実施できている。大人が校庭のない状態をかわいそうと思っているのではないか。場所がなくても体力向上に向けて、バランスボールなどして工夫してみるとよい。</li> </ul>
<p><b>VI 特別活動について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事の充実、異学年交流活動、クラブ・部活動の充実などについて</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●四者評価において、保護者の肯定的な回答が3ポイント増で77.8%だが、区平均よりは10.2ポイント低い。学校行事等は学校改築に伴う制限や授業時数の制限があり、満足度が上がらないと思われる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事や特別活動は、そのねらいを達成するよう、場所や時間の制限はあるが、可能な形で実施している。特別活動の意義や様子を発信し、理解を求めていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中央体育館のスポーツフェスティバルは賛成である。雨の心配はなく参観しやすい。群読発表会は中学校の合唱コンクール並の発表内容であった。このままでよいので、目的や意義を発信していくとよい。</li> </ul>

<p><b>Ⅶ 学校生活全般について</b></p> <p>＜生活指導＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生活規律の徹底、いじめや不登校の現状と対応、教員の関わり方、特別支援教育への取組などについて</li> </ul>	<p>◎四者評価において、保護者の肯定的な回答が 4.1 ポイント増で 83.8%となり、区平均の 2 ポイント下であった。学級経営の充実により、規範意識の向上が図られている。</p> <p>●四者評価において、上学年の肯定的回答が 6.1 ポイント減の 82.4%で区平均を 2.1 ポイント下回った。しかし、学級の様子は落ち着いており、i-check の散布図でも集団は安定の傾向であるため、原因を探る必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学級経営により、落ち着いた雰囲気を持続する。</li> <li>上学年の各学級で規範意識に課題のある傾向があるのか、生活指導部、各学級担任が観察し、指導をすすめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活規律ならば、児童への質問項目は「ルールを守っているか」が良いのではないかと思う。上学年の結果の低下については、児童個別に聞いていくようにしてほしい。</li> </ul>
<p>＜防災教育・安全指導＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>事故や災害に関する安全教育や情報モラル教育の充実、安全管理などについて</li> </ul>	<p>＜安全教育＞</p> <p>◎四者評価において、肯定的な回答が保護者 90.6%、児童も 90%以上であり、比較的良好である。</p> <p>●四者評価の回答は、区平均よりは低い。</p> <p>＜事件・事故等防止＞</p> <p>◎四者評価において、肯定的回答は保護者が 10.3 ポイント増 84.6%、下学年が 19.8 ポイント増 94.2%であった。児童への指導の浸透が保護者に伝わったと考える。</p>	<p>＜安全教育＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、防災教育・安全指導を充実し、学校 HP や学校だより等で取り組みを発信する。</li> </ul> <p>＜事件・事故等防止＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、不審者対応や交通安全について、全校集会や学級指導において徹底する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>災害・不審者への対応は訓練を重ねるしかない。登下校中の不審者対応、交通事故も心配であるので、取り上げてもらいたい。</li> </ul>

<p>&lt;幼・保・小・中連携&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校や同じ中学校区の小学校との連携について</li> <li>・近隣の幼稚園・保育園との連携について</li> </ul>	<p>◎四者評価において、教職員の肯定的な回答は 0.6 ポイント増で、ほぼ変わらない。</p> <p>●四者評価において、保護者の肯定的回答が 59.8%で、昨年度よりは 7.1 ポイント増だが、区平均よりも 11.5 ポイント低く、連携教育の評価は低い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、中学校区の連携活動について情報発信していくとともに、連携の充実について中学校区で検討する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校の統合の忙しさはあるだろうが、児童生徒の連携行事は大切である。保育園との連携は引き続き取り組んでほしい。</li> </ul>
<p><b>VIII 情報の発信</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の情報発信の充実について</li> </ul>	<p><b>【情報の発信】</b></p> <p>◎四者評価において、保護者の肯定的回答の割合が 6.2 ポイント増の 77.8%となった。学校 HP、H&amp;S の情報発信が昨年度よりも認められた。</p> <p>●四者評価において、保護者の肯定的回答は区平均よりも 7.6 ポイント低い。情報発信の認知度をさらに高める必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校から情報発信している内容について多様な機会に周知を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校からの情報発信はもっと詳細に伝えても良い。情報発信の数が少ないとは思わない。行事の様子よりもインフルエンザの状況などの情報がほしい。</li> </ul>
<p><b>IX 教員の人材育成について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日常の職務をとおして専門性と協働性の育成、教育公務員の自覚について</li> </ul>	<p>◎四者評価において、教員の肯定的な回答の割合が 100%で、区平均より 2 ポイント多い。校内研究や 20 分研修等によって専門性と協働性を育成できている。主任教諭選考の合格者が 3 名いる。</p> <p>●教員の専門性を生かした研修も実施したい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、校内研究や研修を実施する。管理職選考や 4 級職選考の受験について情報提供と啓発をする。</li> <li>・主幹教諭、主任教諭が専門性を生かした研修計画を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員がやる気をもって取り組めるようなサポートがあると良い。</li> </ul>

<p><b>X 教員の働き方改革について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>校務支援システムの活用、「チーム学校」を意識した業務分担等、組織的な業務の効率化・最適化について</li> </ul>	<p>◎四者評価において、教職員の肯定的な回答が昨年度と変わらず100%で、区平均よりも10.3ポイント多い。年度当初など、時期により在校時間が長い教員が一部見られた。全体的には、定時退勤や休暇が取りやすい風土が醸成されている。</p> <p>●保護者、児童相談センター、SSW等の外部との会議が勤務時間をこえる場合がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教員が児童理解・学習指導・生活指導に取り組む時間を確保するための業務の分担や精選を引き続き行う。</li> <li>休憩時間や勤務時間外に設定せざるを得ない外部との会議に、教員が参加する際の取り扱いを確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童の満足度は教員の満足度が影響する。教員が働きやすく、教員同士の仲の良さが高められたら良いだろう。</li> </ul>
<p><b>XI 服務事故の防止について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>服務事故防止に向けた取組などについて</li> </ul>	<p>◎四者評価において、教職員の肯定的な回答が100%であった。服務事故を起こさない環境や人間関係づくりと管理職による服務事故防止研修を実施している。</p> <p>●個人情報の保護、情報機器の管理、人権感覚に課題が見られた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育公務員として、服務事故を起こさず業務を行うための定期的な環境の点検、職員間の声かけ、研修を継続する。</li> <li>業務フローの改善、全職員への意識啓発を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教員採用時に、服務事故を起こすような者を採用しないようにしてほしい。採用時にその者に課題があることを見抜けず、事件・事故を起こしているのではないか。</li> </ul>